



加治丘陵だより

令和元年 5月1日

第 30 号

NPO法人
加治丘陵山林管理グループ

E-mail iruma@npo-kajikyuryo.net URL <http://www.npo-kajikyuryo.net>

令和元年(平成31年)度のスタートにあたり

理事長 大山 博



創設17期目を迎えました。この約2年間は、行政当局のご指導を受け、主に里山「加治丘陵」の北コースと南コースを結んだ「自然探勝路」の建設に携わり、無事完成、入間市内外の散策者から好評を得ています。昨年は台風の影響で75本の倒木被害があり、その処分も無事に終えましたが、気候変動により今年度も予断を許しません。対応に万全を期して当たります。今年度は、「花見の丘公園」建設3ヶ年計画の3期目、入間市農業環境改善センター南側の花見の丘で通算約1,000本のヒノキ材伐採を手掛けております。これからは、公園に合う木々花々を植樹して、美しい公園の完成を目指してまいります。入間市より提供を受けている無償整備地の通称「ふれあいの森」の新たな整備

計画のもと景観や諸設備の整備を進めます。

創設以来無事故を継続しており、心身ともに健康に留意しながら、機械整備にも力を注ぎ、更に真剣な作業を進めていきたいと考えています。新元号が公布され、人事、事務、作業の3部門のバランスを保ちながら、我々も新たな気持ちでグループの運営に取り組んでまいります。又、パンフレットを新たに作成しました。会員増強に格段のご支援をお願いいたします。

作業状況報告

作業担当副理事長 大垣敏夫

平成30年度下半期作業実績

当期の作業実績は次のとおりで、前年同期と比較して約10%増の工程増となりました。

下草刈総面積：52,439㎡ 伐採総本数：569本 皮むき：130本 伐採木運搬：455本

落ち葉掃き：16,504㎡ 木材チップ化：40㎡ チップ敷き：40㎡

具体的な主工程は、

- ①山仕事の広場等で実施された定期的下草刈り
- ②上半期に花見の丘等で伐採・皮むきをし、自然乾燥させていた木材の処理
- ③ふれあいの森の伐採、下草刈り等整備
- ④10月1日の台風24号による倒木や幹折れ75本の緊急処理

- 被害は予想以上に激しく緊急対応が要請され、毎日朝から日没までの作業でしたが、事故もなく完了
- ⑤12月から3月の閑散期には、新たな試みとして、間伐材から積木を作る

(製作品は市役所を通して保育園等へプレゼントする予定)



伐採作業



下草刈作業



チップ敷き

令和元年(平成31年)度上半期作業予定

実施予定の作業内容と作業量は次のとおりで前年度と同程度

下草刈り面積：94,891㎡ 樹木伐採：300本 間伐材利用：階段等の設置予定

本年度も全員で安全第一を目標にして作業に取り組んでいきます。皆様ご協力お願いします。

平成30年度下半期実施イベント

入間万燈まつり出店 10月27(土)、28日(日)

今年も多くの方の協力ののもと、イカ炭火焼き、マフィン、缶ビールに加えて伐採した木材による木工品の販売で出店しました。

天候にも恵まれ多くのお客様が訪れてくださいました。



入間市主催研修会参加 11月6日(火)

入間市都市計画課主催で、加治丘陵の山林管理を担っているボランティア団体が参加して入間市農村環境改善センターで実施されました。当グループからは13名が出席し、埼玉県環境科学国際センター講師の三輪誠氏から「県内の希少野生動植物や外来害虫の生態状況」および「最近話題になっているニホンジカの食害」の講演を拝聴しました。

楽山ゴルフ会開催 11月7日(水)

第22回楽山ゴルフ大会が群馬県藤岡市緑野CCで20名の参加で開催され、原会員の優勝で幕を閉じました。

忘年会 12月9日(日)

平成最後の忘年会と銘打って入間市市民会館3階1号室で開催され、77名の会員が参加され、約2時間、余興のフラダンスへの飛び入りも含めて皆様楽しく懇親を図られました。

令和元年(平成31年)度上半期イベント

- | | | |
|------------------|----------|-------------------------|
| ・安全研修 | 4月7日(日) | さとやま管理事務所で実施予定 |
| ・入間市都市計画課との意見交換会 | 4月15日(月) | イルミンで開催予定 |
| ・楽山ゴルフ大会 | 4月18日(木) | 群馬県シルクカントリー倶楽部で開催予定 |
| ・第17回通常総会 | 6月2日(日) | 入間市市民会館3階1号室で午後2時より開催予定 |
| ・森林視察研修 | 9月1日(日) | 開催予定で検討中 |

【各イベントの詳細情報や参加ご希望の方は電話・FAXで事務所へご連絡下さい。】

パンフレットの作成

当グループのPR、新入会員募集の勧誘ツールおよび加治丘陵の紹介を目的として「NPO法人加治丘陵山林管理グループ」のパンフレットを新たに作成しました。

皆様におかれましては、一読いただき、お気づきの点等電話、FAXで事務所へご連絡下さい。また、このパンフレットを活用いただき新入会員の勧誘にご協力願えれば幸いです。

会員情報・ニュース

①平成31年3月末の会員数 正会員 165名、賛助会員 14社

新入会員をご紹介します

お知り合いの方で、我々の活動にご興味を持っておられる人はいらっしゃいませんか。
ホームページ (<http://www.npo-kajikyuryo.net>) からお申し込み下さい。

②物故会員

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

- | | | | |
|----------|--------|----------|------------|
| 会員No.59 | 杉野 喜久氏 | 平成30年10月 | 没(元理事・前監事) |
| 会員No.19 | 加藤 保氏 | 平成30年12月 | 没(元理事) |
| 会員No.216 | 豊泉 功氏 | 平成31年1月 | 没(元理事) |

③賛助会員紹介（登録順）

会員名：～愛と祈り～ 株式会社いわさき 葬祭部・いつも事業部

代表者：代表取締役社長 鎌田 泰由

所在地：入間市豊岡 1-6-6

連絡先：04-2962-3170（電話） 04-2966-7878（FAX）

【弊社紹介】

創業からあと10年余りで100周年を迎える弊社は、企業理念「大事なことは、ただ一つ、お客様が満足し喜んで頂く」ために日々努力研鑽に励んでいます。現在社会の急激な変化とそれに伴う生活者意識の変化にも柔軟に応じられる企業体質により、いつも・どこでも・どなたにも、お客様に寄り添い、ベストを尽くしてまいります。

【当グループへの一言】

入間市民の県下に誇る「市民による自然環境保全」の担い手としての貴グループの活躍ぶりに敬意を表しており、今後の課題として是非若手会員の育成・参加に期待しております。

会員名：宮寺会計事務所 ～会計で会社を強くする～

代表者：所長・税理士 宮寺 成人

所在地：入間市下藤沢 6-3-0-6

連絡先：04-2964-6010（電話） 04-2964-4966（FAX）

【弊社紹介】

弊社は定期的にお客様のところに訪問し、帳簿や資料のチェックなどを行うことによって正しい記帳処理が行われているかを確認し、アドバイスを行う巡回監査に力を入れております。

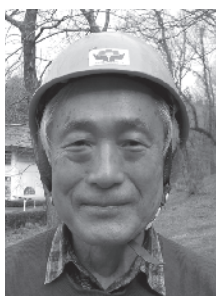
また、システムを利用した経理事務の省力化や社会保険の手続きなど幅広くお客様のニーズにお答えできるよう職員一同、日々研鑽しております。

【当グループへの一言】

自然とのふれあい、自然への親しみ、自然から学ぶ機会が少なくなっている昨今において加治丘陵は貴重な財産であると思います。その財産を保全し、管理している貴グループが発展・継続していくことを望んでおります。

【会員の思い出話】 「腕白坊主」

会員No.479 齊藤 紘一



私は、昭和57年夏、小学3年生を頭に3人の息子を伴い入間台団地に転居してきました。子供達は、すぐに環境に慣れ、新しい友達も出来て、毎日野山を駆けめぐる日々を送りました。

ある日帰宅すると、家内から子供達を叱ってくれと言われました。子供達が起こした不始末で学校に呼ばれ指導されたと言うのです。

何でも兄弟3人で農家が保管するほだ木を壊し中にあるカブト虫の幼虫を捕ってしまい、幼虫を虫籠に入れて帰る際、他の子供達に見つかり、何処で捕ったと聞かれ教えたところ、その子供達も友達と一緒にほだ木をさんざんに壊してしまったのです。農家の方からの通報で学校が知るところとなり、事情を調べた結果芋づる式に我3人の息子に辿り着き、ほだ木壊しの代表として、兄弟3人が学校の1、2、3階の各廊下にたたされました。

私は、自分の子供時代を思い出しながら、子供達を見ると、夕食の箸も止まり、しゅんとしていました。私は、ビールを一口呑み、ニヤッと子供達を見ると、阿吽の呼吸かホッとした様子で元気を取り戻し、「お母さん、ご飯おかわり」と茶碗を差し出しました。これなんだからと家内は呆れ顔でした。しかも、長男は、立たされた廊下から教室を覗き込んで先生の質問に勝手に答えたらしいのです。先生は、「この子につける薬は無い」と思ったのでしょうと家内の弁でした。

腕白坊主どもも、今はそれぞれ40代になり、企業戦士として日夜闘っています。

私は、加治丘陵が子供達を逞しく育ててくれたと感謝しています。



今回は、昭和30～40年代の加治丘陵について、私が子供のころから見聞きしてきたことを中心に整理してみました。

1. 加治丘陵の樹木の利用

この年代の加治丘陵には杉、松は少なく、赤松とコナラ等の広葉樹が多く生育して、赤松は良材を建築用として活用され、広葉樹の枝打ち、抜き切り、間伐により出た枝木は家庭の燃料として使われ、落ち葉は堆肥作りに活用されていました。晩秋から1月中は、人々が一斉に山に入って手入れをし、この作業が終わった山はとてもきれいでした。

30年代後半になると灯油とLPガスの普及により樹木の燃料利用は少なくなり、また、この頃から松は立ち枯れ（マツノサイセンチュウの被害）となり利用されないまま姿を消しました。そして、建材価値の高い杉と松の植林が大幅に増え、これが50～60年経過した現在、建築用材としての利用時期（良材は杉50年以上、松100年）を迎えたが少量本数では取引されず、しかも手入れ（枝うち）されていない材はなおさらでした。

なお、この頃の山の手入れの“落ち葉はき（くずはきと言った）”は重労働で、学校の冬休みはほとんどこの手伝いでした。“落ち葉はき”の方法は①下草刈りで、ナタ鎌（大鎌）を2、3丁用意して地面スレスレで刈り切り、熊手の爪が引っ掛からないようにした。（当時まだ刈払機はなかった）②熊手で落ち葉を山側から谷側へはき下ろす。③熊手で寄せ集め、圧縮して「巣」づくりをする。巣はロール状で重さ60kg位であった。（これは海苔の太巻きづくりに似ていた）④巣を運び出すには背負子で担ぎ出し、リヤカー、トレーラー等に乗せる。私の家では①は祖父、③と④は父の担当で、②が私の担当でした。①の下草は「バヤ」と言って薪の火付け材料でした。

この山は道の狭いところが多く、耕運機にトレーラーをけん引したものが活躍していました。

巣づくりは少々技術が必要でした。量の少ない家では大きな竹カゴに入れて運んだ。落ち葉の利用には、畑が1haあると、同じ面積の山の落ち葉が必要とされ（巣では100本になる）、こうして集めた落ち葉は家畜（牛と豚）の寝床とし、糞尿を処理した家畜堆肥をつくり野菜づくりには重要なもの、さつまいもの苗づくりの温床にも必要でした。山の恵みはすべてを使ったものでした。

2. 加治丘陵の山土砂の利用

昭和30年中頃は東京オリンピックの建設ラッシュでコンクリート用骨材需要が高まり、入間川添いの水田（現南飯能高校と野球グラウンド、公園）の下にあった川砂利を採掘して活用した。その跡地の埋め立て用に阿須山（現駿河台大学）を削って運んだ。昭和40年代に入ると現カインズホームと飯能球場のところにあった山、続いて南峯の長沢山（現金子ゴルフ）もブルドーザー、パワーシャベルで削り、この土砂は高速道路（関越自動車道）の盛土にダンプカーで運び出され、その台数は1日当たり数百台から1千台にもなったと聞いている。このダンプカーの多くは東北と北海道のナンバーの出稼ぎでした。そして、およそ20年間に大きな山が三つ姿を消していったのです。その頃の山は価値があり、地主は所有権は売らず「土砂」のみ売ったようです。

最後に、今後の加治丘陵の利用を考えると、現在は野放し、放置の荒れ放題のところもあり残念です。杉、松は知らず、知らず大きくなります。森林が二酸化炭素を吸収し、温暖化を抑えるというが、近頃発生の自然災害、土砂、流木など、また杉、松の花粉を減らすための管理には針、広葉樹の混合林が望ましいと思います。里山の公園の実現はいつになるのか。やることはいっぱいあります。今何とか改善して、次世代へ引き継ぎたいものです。

～編集後記～ 本号は、令和元年5月1日発行という記念号になりました。会員の皆様を連携できる会誌となるよう日々努力していきたいと考えています。なお、賛助会員様から「自己紹介」や「当グループへの一言」等をいただくコーナーを新設し、各号2社程度掲載していく予定です。原稿依頼の節はご協力よろしくお願いします。

（編集委員長 埴生）